

令和4年度入学生 A・Kさん

（１）税理士の道を目指した理由

私は企業支援の仕事をしているのですが、お客様から税務に関する質問が多かったことから、はじめに会計の勉強として簿記検定3級・2級を取得し、そこからさらに知識を高めたいと思い、税理士試験の会計2科目を取得した段階で、自分の中での目標は達成したなと思っていましたが、最近になって税法に関する質問も増えてきたことから税法の知識もつけたいと思い大学院進学を決めました。

最初こそ、税法の勉強ができればと思っていたのですが、会計2科目が合格していることもあったので、せっかくなら大学院で税法2科目免除後に、残りの税法1科目を試験で合格し、そのうえで、税理士資格を持った企業支援者を目指そうと思うようになりました。

（２）平成国際大学大学院を選んだ理由

主なご支援先が埼玉県ということもあったので、大学院は埼玉県内であることが大前提でした。

本学以外にもいくつか検討していた所もありましたが、さいたま新都心駅から徒歩2分というアクセスの良さと、論文指導を行う先生方の実務経歴から最終的にここに決めました。やっぱり現場を知っている先生がいるのってすごく説得力がありますし、実務にも生かしたいと思っていた自分にとってはとても魅力的でした。

（３）研究テーマ

私の研究テーマは、「法人税法における役員給与の損金不算入について」です。このテーマにした理由は、企業支援をしている身として、絶対“法人税法”を扱いたいと思っていました。

その中で何か興味のあるものや実務に生かせるもので、訴訟の多いものがないかなと考えた末に、本テーマが自分のやりたいことに当てはまっていました。

（４）学びの中で、最も印象に残っているエピソード

金沢先生の演習で、先生から1つ訴訟事件を与えられて、それを研究テーマとして15ページほどにまとめて発表するというのがあったのですが、まとめるまでに、条文を読み・事件の判決文を読み・租税法学者の評釈を読んだうえで自分なりの意見を出すといういわばプチ論文の作成は、初めてだったので印象に強く残っています。

というのも、もともと私は理系の大学院を修了していて、修士論文の作成経験があったので税法に関する論文作成についてもおおよそイメージはありましたが、やっぱり理系の論文とはまったくジャンルが違ったのでとても新鮮でした。

（５）今後の目標

なるべく早く修士論文を書き上げたいです。そして大学院修了後は、残りの税法 1 科目を取得し税理士資格を取得することと、企業支援者として税法に強い人になりたいです。

（６）受験生へ一言

埼玉県内で大学院を探している方については、アクセスの良さと先生方の実務経験等に基づくノウハウ、お人柄、丁寧な指導体制がこの良い所なので、大学院を選ぶ一つのきっかけにしてもらえるといいなと思います。私自身、ここに入ってよかったと思うことばかりです。

みなさんがこのインタビューを見て興味を持ってもらえたら嬉しいです。